

学校だより 12月号

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

平成30年12月3日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

URL

<http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



「教育」は人を育てる営み ～一生懸命な姿は「努力」を生み、人の心を動かす～

校長 池澤 道弘

日に日に気温が下がり、冬の訪れを感じる頃となりました。11月10日の「小谷小まつり」では、PTA役員の皆様、おやじの会の皆様、文化財保存会の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様に大変お世話になりました。第1部の「校内音楽会」では、子どもたちのひたむきな姿に心打たれました。また、第2部の「ふれあいタイム」では、地域や保護者の皆様の郷土愛や学校に対する思いを感じることができました。私自身、「小谷小まつり」は初めての経験でしたが、本校の教育活動はたくさんの方に支えられていることを再認識することができました。本当にありがとうございました。

さて、先日ある研修会で「人を育てる上で是非とも認識してほしいこと」という内容の講義があり、最後にまとめとして「こんな人を育ててほしい」というエピソードのお話がありました。今回はその中の一つ「小さなスーパーでレジ打ちをする女性のお話」をご紹介します。

今まで転職を繰り返してきた彼女は、レジ打ちの仕事にも不満を感じていました。ある日、田舎の母親から「帰っておいでよ」という電話をもらい、帰郷を決心した彼女は、荷造りの途中に古い日記を見つけ、ピアニストを夢見ていた少女時代を思い出します。

あの頃に比べ、すっかり「逃げ癖」がついてしまった自分に気付き、泣きながら「もう少しここで頑張る」と母親に電話した彼女は、翌日から仕事ぶりが変わりました。ピアノの要領でキーの位置を覚え、レジ打ちに余裕が出ると、ひとりひとりのお客様との会話が楽しくなってきたのです。「今日はマグロよりカツオがおススメですよ」なんて、アドバイスすることもありました。そして、ある日、彼女は奇跡の体験をします。

その日のスーパーは大混雑。彼女はいつものようにお客さんと会話しながらレジ打ちに追われていました。すると「恐れ入りますが、空いているレジへお回りください」という店内放送が入ります。「えっ？」と思って周りを見渡した彼女は「信じられない光景」を目にしたのです。5つあるレジのうち、お客様が並んでいるのは自分のレジだけ。他の4つのレジには、誰も並んでいません。店長が駆け寄ってきてお客様に「どうぞ、空いているレジへお回りください」と言ったその時、ひとりのお客様がこう言いました。「放っておいてちょうだい。私はここに買い物に来ているんじゃない。あの人としゃべりに来ているんだ」その言葉を聞いた瞬間、彼女はその場に泣き崩れました。

この若い女性は、恐らくたくさんの挫折を味わってきたのでしょう。でも、かつての自分には未来への希望の光があったことを思い出し、自分の良さを活かすとともに、「お客さんとのコミュニケーションを大切にする」という工夫を加えたことが、このエピソードに繋がったのだと思います。「一生懸命やっていると仕事は面白くなるんだよ。面白くなると努力しちゃう。それが本当の努力であって、努力しなくちゃいけないと思って努力してるんじゃない」映画界の巨匠、黒澤明監督は、数々のインタビューで、映画への情熱やモチベーションの持続について問われると、決まってこう答えたそうです。（島敏光著「黒澤明の59の言葉」より）

教育は「人を育てる営み」です。人生は山あり谷ありますが、どんな状況にあっても、目の前のことに全力を尽くすことのできる「生きる力」をもった子どもたちを育てていくことが、教育の責務なのではないかと思えます。とは言え、学校だけでは、子どもたちにたくさんの経験をさせ、人として大きな成長を促すことはできません。豊かな人間性をもった子どもたちを育てていくために、今後も学校・家庭・地域が一体となった「共育」の推進にご理解・ご協力をお願いいたします。

